



## 企業長就任の ご挨拶

みやぎ県南中核病院企業団

企業長 しも せ がわ とおる  
下瀬川 徹

10月1日付けで、みやぎ県南中核病院企業団の企業長を拝命しました下瀬川徹です。県南地域の住民の健康を守る中心的役割を果たす本院の病院経営の責任者となりました。重責に身が引き締まる思いがします。病院が健全に医療活動を展開し、職員が高い意欲をもって診療に専念するためには、安定した病院経営が不可欠です。また、人口減少、高齢化が急速に進む県南地域の医療は今後、大きな変革を迫られるでしょう。中核病院を中心に、県南地域の医療を支える全ての皆さまと連携し、将来に向けて、良質な医療を継続的に提供可能な新たな仕組みづくりが求められます。現状をよく分析して理解を深め、皆さまとともに将来を見据えたさまざまな課題に取り組んでいきたいと考えています。どうぞ宜しくお願いいたします。

私の専門は消化器内科で、特に膵臓疾患の診療・研究に携わってきました。昭和54年に東北大学医学部を卒業後、都立駒込病院で初期・後期研修を行い、昭和57年に東北大学第三内科に入局しました。昭和61年から米国オクラホマ州立大学、イリノイ州立大学に留学しました。平成2年に帰国して第三内科助手となり、平成9年に東北大学病院助教授、その後、大学院重点化により平成10年9月に東北大学大学院医学系研究科消化器病態学分野（消化器内科）の初代教授に就任しました。平成14年から2年間、平成21年から3年間、東北大学病院の副院長を経験し、平成24年から東北大学病院長を3年間勤めました。その後、医学系研究科長・医学部長を2年間勤め、大学では多く

の貴重な経験を積ませていただきました。特に、東日本大震災は人生の中で最も大きな事件であり、病院長、医学部長時代を通じて、震災からの復興は大きなミッションでした。被災地医療に取り組む中で地域医療のさまざまな問題点がより明確に見えるようになり、大きな関心を持つようになりました。

父が勤務医であったため、幼少期は秋田県や青森県の田舎町で地域住民のために働く父の姿を見て育ちました。そのような環境で過ごしたこともあり、地域医療こそが医師、医療の原点という考えを持ち続けています。

東北大学消化器内科は、旧第三内科時代を含め、これまで県南地域の医療に深く関わってきました。教室の多くの諸先輩が生涯にわたって県南の医療を支えてこられた歴史があり、その歴史は現在も脈々と受け継がれています。また、中核病院の前身の町立大河原病院時代より、教室からは多数の医師が本院ならびにこの地域の病院や診療所に派遣され、県南の医療に貢献してきました。私自身も、助手時代に数年間にわたって村田町国保病院の診療応援を経験させていただき、病院関係者や地域の皆さまに温かく迎え入れていただいた思い出があります。

本院病院長の内藤広郎先生、副院長の最首俊夫先生、同じく副院長の井上寛一先生、救命救急センター長の川上一岳先生とは医学部の同期であり、学生時代からの付き合いになります。内藤病院長をはじめ病院職員の皆さんのたゆまぬ努力により、中核病院は県南医療の要として高い水準の医療を提供するとともに、優れた医療スタッフを擁し、良質な医学教育を推進する県内でも注目される病院に発展してきました。今後は、私も初心にかえり、本院の更なる発展のために少しでもお役に立てるよう、全身全霊を傾けて取り組んでまいります。

